



2021年6月21日

2020年度（第40期）決算について

- ◆コロナ禍で大幅な減収減益となったものの11期連続で経常利益及び当期純利益を計上
- ◆依然として2,415億円余りの長期債務が存在

東葉高速鉄道株式会社（本社：千葉県八千代市 社長：飯田 浩子）の2020年度（第40期）決算がまとまりましたのでご報告いたします。

【輸送人員】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大及び2度にわたる緊急事態宣言発出などに伴う経済・雇用情勢の悪化、外出自粛やテレワークの増加などの影響を受け、年間輸送人員は4,238万1千人（前年度比25.8%減）、1日平均では11万7千人となりました。

【決算概要】

コロナ禍からの早期回復に努め、早期の自立経営の確立を目指すことを目的とした「第七次経営改善計画」に基づき、新たな企画乗車券の発売などの増収策及び最大限の経費節減を実施しました。

この結果、旅客運輸収入は117億5千万円（前年度比26.4%減）、関連事業による運輸雑収は4億6千万円（前年度比18.5%減）、営業利益は25億6千9百万円（前年度比59.7%減）となりました。また、営業外費用のうち鉄道建設時の長期債務に係る支払利息は13億8千7百万円となりました。

これらにより、前期と比べ大幅な減収減益となったものの、経常利益10億6千万円、当期純利益7億1千4百万円を計上することができました。

しかし、依然として新型コロナウイルス感染症の今後の影響については不確定要素が多く、引き続き注視が必要であること、また、2,415億円余りの長期債務の存在により債務超過の状態であることに変わりはなく、経営上の大きな課題となっております。

（単位：百万円）

		2020年度 (第40期)	2019年度 (第39期)	増減
営業収益	運輸収入	11,750	15,954	△ 4,204
	運輸雑収	460	564	△ 104
		12,210	16,519	△ 4,308
営業費用		9,640	10,150	△ 509
営業利益		2,569	6,368	△ 3,798
営業外収益		115	142	△ 26
営業外費用		1,624	1,858	△ 234
経常利益		1,060	4,651	△ 3,591
特別利益		160	254	△ 94
当期純利益		714	3,231	△ 2,516

【参考】

長期債務残高	241,504	247,145	△ 5,641
--------	---------	---------	---------

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

事業報告

〔 2020年4月1日から
2021年3月31日まで 〕

1. 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

当社は1996年4月の開業以来、地域に密着し地域と共に歩む鉄道として、安全・正確・快適な輸送サービスの提供と健全経営の確立に努め、輸送の安全確保に関して2020年度も開業以来の運転無事故記録を継続することができました。

一方、2020年度においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大及び2度にわたる緊急事態宣言発出などに伴う経済・雇用情勢の悪化、外出自粛やテレワークの増加などの影響を受け、経営は大変厳しい局面に直面しました。

輸送面については、「新型インフルエンザ等対策特別措置法」第2条第8号に規定する「指定地方公共機関」として、お客様及び社員の感染症対策を徹底した上で、通常運行を確保するとともに、2度目の緊急事態宣言下においては国及び自治体からの要請を踏まえ終電時刻の繰上げを行いました。

お客様への新型コロナウイルス感染症対策としては、駅の機器や設備の消毒、車両内の抗菌・抗ウイルス処理、窓開けによる車内換気などを行うとともに、駅構内・車内放送で感染症対策や時差通勤などへの協力を呼び掛けました。また、感染予防の観点から、多くの方々にご参加いただいている恒例の「東葉健康ウォーク」、「東葉サマーコンサート」、「東葉家族車両基地まつり」などを中止いたしました。新たな取り組みとして小学生以下のお子様によるぬりえ作品で車内を飾った「東葉ぬりえトレイン」を運行いたしました。さらに、社員への感染症対策としては、健康管理を徹底いたしました。

厳しい経営面を踏まえ、最大限の経費節減に取り組むとともに、感染症対策に配慮した新しい企画などの実行により、定期外収入及び関連事業収入の確保を図りました。具体的な方策としては、手元資金を確保するため独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構への繰上償還を取り止めるとともに、年度事業を抜本的に見直し、輸送の安全に関する事業を優先的に実施し、その他の事業は実施時期を見直すなど、最大限の支出抑制に取り組みました。

営業面では、新たな企画乗車券として「秋のホリデーおでかけパス」及び「年末年始おでかけ1日乗車券」の発売、21時台の下り（東葉勝田台方面）の増発などのダイヤ改正を実施するとともに、関連事業において、駅構内への新規テナント誘致のほか、「新しい生活様式」を見据えたシェアサイクルサービスの導入、個室型ワークスペース導入の検討を進め、お客様サービスの向上及び積極的な営業活動による収益の確保に努めました。また、沿線地域の暮らしやすさを発信し定住促進に貢献するための沿線魅力冊子「LIFE With 東葉」の発行準備を進めました。

安全面では、高架橋の耐震補強、列車制御システムの車内信号方式への改良（CS-ATC化）工事及びレール・電気通信設備・車両機器の点検・更新などを進めました。その他、船橋市からの受託事業として海老川上流地区の新駅の設計業務を実施しました。

また、「第六次経営改善計画」に続く新たな経営改善計画として、2020年度から2023年度までの4年間の計画期間とする「第七次経営改善計画」を策定しました。本計画に基づく施策及び事業の着実な実施を通じて、コロナ禍からの早期回復に努め、早期の自立経営の確立を目指すとともに、強固な経営基盤を構築することとしております。

こうした取り組みの結果、2020年度の輸送人員は4,238万1千人（前年度比25.8%減）、1日平均で11万7千人となり、旅客運輸収入は117億5千万円（前年度比26.4%減）、運輸雑収は4億6千万円（前年度比18.5%減）となりました。営業費用面では最大限の経費節減に努め、営業利益は25億6千9百万円（前年度比59.7%減）となりました。また、鉄道建設時の長期債務に係る支払利息が13億8千7百万円（前年度比2億3千5百万円減）にとどまったことから、前期と比べ大幅な減収減益となりましたが、経常利益10億6千万円、当期純利益7億1千4百万円を計上することができました。

(2) 対処すべき課題

鉄道事業者として最大の使命は輸送の安全確保であり、今後も安全を確保するため、安全管理規程に基づき対策を確実に実施してまいります。

また、「第七次経営改善計画」に基づく施策及び事業を着実に実施してまいります。新型コロナウイルス感染症の影響については依然として不確定要素が多いことから、引き続き、輸送面及び経営面への影響を注視するとともに、影響が懸念される場合は迅速に追加の対策を講じてまいります。

さらに、当社は依然として多額の有利子負債により債務超過の状態であることに変わりはなく、経営上の大きな課題となっております。

引き続き、国、千葉県、船橋市、八千代市による利子補給や、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構による建設資金の償還期間の大幅な延長を実施していただくとともに、今後の支援のあり方などについては、支援関係者と当社で構成する「東葉高速自立支援委員会」においてご検討いただくことになっております。

このように多大な経営支援を賜っている関係各位に対しまして、深甚なる謝意を表すものであります。

株主の皆様におかれましても、これまで同様、当社の置かれております現状について、ご理解、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

貸借対照表

(2021年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	21,751,790	流 動 負 債	8,606,631
現金及び預金	20,143,427	未払金	6,201,524
未収運賃	936,988	未払費用	283,084
未収金	107,055	未払消費税等	28,172
貯蔵品	157,186	未払法人税等	77,871
前払金	500	預り連絡運賃	644,407
前払費用	35,316	預り金	10,263
未収還付法人税等	371,315	前受運賃	1,102,705
		前受金	20,844
		賞与引当金	237,757
固 定 資 産	219,562,112	固 定 負 債	237,622,829
鉄道事業固定資産	214,474,471	長期未払金	235,730,693
建設仮勘定	428,910	退職給付引当金	1,731,492
投資その他の資産	4,658,731	圧縮未決算特別勘定	14,960
投資有価証券	4,002,400	その他の固定負債	145,684
長期前払費用	28,237		
繰延税金資産	627,174		
その他の投資等	920		
		負 債 合 計	246,229,461
		純 資 産 の 部	
		株 主 資 本	△ 4,915,558
		資 本 金	62,600,000
		利 益 剰 余 金	△ 67,515,558
		その他利益剰余金	△ 67,515,558
		繰越利益剰余金	△ 67,515,558
		純 資 産 合 計	△ 4,915,558
資 産 合 計	241,313,902	負 債 純 資 産 合 計	241,313,902

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
鉄 道 事 業		
鉄 道 事 業 営 業 収 益		
旅 客 運 輸 収 入	11,750,386	
運 輸 雑 収	460,249	12,210,636
鉄 道 事 業 営 業 費		
運 送 費	4,355,763	
一 般 管 理 費	321,610	
諸 税 費	772,515	
減 価 償 却 費	4,191,107	9,640,997
営 業 利 益		2,569,639
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	8	
有 価 証 券 利 息	23,675	
そ の 他 の 収 益	91,647	115,331
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	1,387,094	
そ の 他 の 費 用	237,196	1,624,290
経 常 利 益		1,060,679
特 別 利 益		
工 事 負 担 金 等 受 入 額	160,857	160,857
特 別 損 失		
固 定 資 産 圧 縮 損	159,052	
支 払 補 償 費	28,960	188,012
税 引 前 当 期 純 利 益		1,033,523
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	278,959	
法 人 税 等 調 整 額	40,021	318,980
当 期 純 利 益		714,543

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。